

劇映画

# 沖繩

(1970年度作品・モノクロ)

第1部・第2部 一挙上映!!

一坪たりとも  
わたすまい(75分)

怒りの島(120分)

日本人にとって  
沖繩——とは何だ  
民族の魂を  
海鳴にも似た  
烈しさでゆさぶり  
ぶつつける一大ロマン



スタッフ  
製作  
脚本監督  
キャスト

山本 薩夫  
伊藤 武朗  
武田 敦  
佐々木 愛  
地井 武男  
中村 翫右衛門  
加藤 嘉  
戸浦 六宏  
佐々木 すすみ江

今年5月15日で沖繩本土復帰40周年を迎えます。本映画は返還前の沖繩を描いた貴重なフィルムです。第一部で戦後24年間アメリカの占領下にあった「沖繩の歴史と真実」～アメリカと琉球政府が一体となり、基地増強のため「銃剣とブルドーザー」によって土地を収奪される農民の闘いを、第二部では米軍基地で働く労働者の闘い及び沖繩返還運動を描いています。

長編劇映画「沖繩」はかつて映画が描ききれなかった今日の政治そのものに、真正面から迫るべく企画されました。

そこには、今日の沖繩が深く、たくましく叩きこまれています。

この映画を通して、現在の沖繩県民の痛みを私たち一人一人が自分自身の問題として考える契機とし、「基地無条件撤去」への運動に役立てることができればと思います。



沖繩復帰40周年 記念作品 映画「ひまわり」製作上映運動推進上映会

6月1日(金) 岡山県天神山文化プラザ・ホール

- ① 13:30~14:45 【第1部】  
15:00~17:00 【第2部】
- ② 18:10~19:25 【第1部】  
19:30~21:30 【第2部】

《主催》映画「ひまわり」製作上映推進委員会・おかやま  
《共催》岡山県九条の会  
《お問合せ》TEL:086-223-0904(中国共同映画株式会社内)

前売券発売中!

一般(大学生以上) / 1,000円

(当日1,300円)

※小・中・高・障がい者 当日800円(当日券のみ)

# 劇映画 沖繩

第一部 一坪たりともわたすまい  
第二部 怒りの島

## ●スタッフ

製作 山本薩夫・伊藤武郎  
脚本・監督 武田 敦  
撮影 瀬川 浩  
応援監督 橋 祐典

## ●キャスト

佐々木 愛  
地井 武男  
加藤 嘉  
中村 翫右衛門  
飯田 蝶子

●白黒スタンダード 3時間15分

文化座 佐々木 愛

今頃になってこの映画が再上映されるようになった事の、嬉しさと不思議をかみしめています。  
今ニュースで浮上した沖繩問題の陰にこのような歴史があった事を、是非多くの方々に見ていただきたいとおもいます。



がいせつ

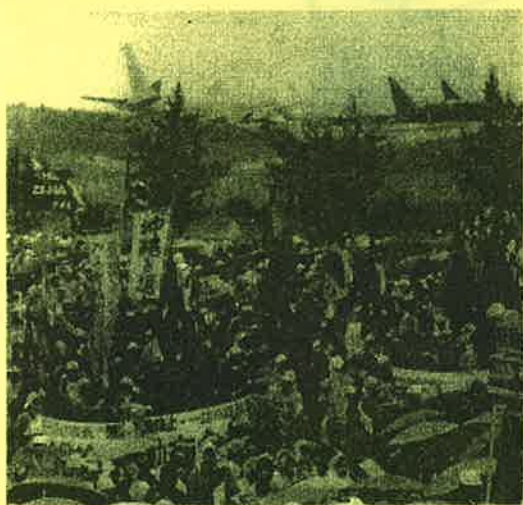
この作品は本土復帰前の一九六九年に製作上映された作品です。

一九六八年十一月沖繩初の主席選挙で民主統一候補の屋良朝苗氏が当選しました。それは戦後沖繩の歴史を変える素晴らしい出来事でした。

沖繩県民の本土復帰への願いがここに結実したわけです。それから一年、沖繩の日本復帰は大きな高まりを示しました。しかし、アメリカの核戦略基地としての日本復帰であるとすれば、それは平和を守る人々のねがいと歪め、同時に歴史の歪曲も意味します。ここに沖繩無条件全面復帰運動の意義がありました。

第一部では土地を奪われた農民たちの怒りと闘いを描いています。

第二部では教育労働者、基地労働者たちの共通した「民族の自覚に燃えた怒り」を主題に、全編を通じ沖繩の即時無条件全面返還の闘いを描いています。



あらすじ

## 第一部 一坪たりともわたすまい

アメリカに土地を奪われた島袋三郎は、基地周辺の米軍物資を物色していた。

「ウチナンチュ（沖繩人）のものを盗めば泥棒だが、アメリカーナのものを盗むのは戦果だ」。これが三郎の生活哲学であった。

アメリカの基地拡張は急ピッチであった。平川部落の強制接収は威嚇射撃で始まった。平川土地を守る会の古堅秀定は、米軍将校に銃をつきつけられ、契約書にサインを強要されたがきっぱりと拒否した。

玉那覇朋子の祖母カマドは戦闘機の機関銃で胸を打ち抜かれ、あたかも軍用地で死んだかのように見せかけられ何の補償もない。

カマドの埋葬は軍用地のなかにあるお墓に白旗ののぼりを立てながら抗議の列となって進んでいった。

## 第二部 怒りの島

十年後ベトナム戦争であえいでいたアメリカは沖繩を基地にB52を出撃させていた。戦争が激化する中で基地労働者の労働条件は厳しさを増した。働く者の権利を守り、ベトナム人民支援の闘いに組合はストライキを準備していた。三郎は米軍にスト破りのスパイを強要されるが、一蹴した。

朋子の弟の巨は米軍のトラックに跳ねられ即死した。巨の教師は軍事法廷で「アメリカの民主主義のウソ」を糾弾したが、陪審員たちは犯人の無罪を決めた。

ストライキ体制は着々と固められていった。翌朝全基地はシーンと静まりかえっていた。ストライキが決行されたのだった。

1000円

AUG 18日

（左の表紙）1000円（右の表紙）500円

（左の表紙）1000円（右の表紙）500円